第十五講　接続助詞／「て」の識別

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★**順接**＝前に述べたことが、予想通りに後ろの内容に続いていく表現形式。

（例）熱がある**ので**、学校を休んだ。

★**逆接**＝前に述べたことに対して、予想外の結果がくる表現形式。

（例）熱がある**けれど**、学校に行く。

★**確定**条件＝既に成立していること。

「順接」＝〜ので・〜ところ・〜といつも

「逆接」＝〜けれど

★**仮定**条件＝「仮に成立したら」と決めて、後ろに続ける。

「順接」＝もし〜ならば

「逆接」＝たとえ〜としても

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「ば」の用法＝「　接」

●「　形」＋ば＝　条件

（　〜　）

（例）出でていな**ば**誰（たれ）か別れの難（かた）からむ

●「　形」＋ば＝　条件

原因・理由＝（　・　）
偶然　　　＝（　・　）
恒常　　　＝（　）

（例）時世（ときよ）経て久しくなりにけれ**ば**、その人の名忘れにけり。

天の原ふりさけ見れ**ば**春日なる三笠の山に出でし月かも

翁、心地あしく苦しき時も、この子を見れ**ば**苦しきこともやみぬ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
イ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ウ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
エ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
オ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

問二　「知らぬどちも、心静かに求（と）めゆかば、…」の傍線部の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　知らない者同士であっても、心静かに互いを理解したので
イ　教養がない人たちでも、落ち着いて物事を考えたので
ウ　無知な人たちでも、もし冷静に道を求めてゆくならば

問三　「人げなくおぼえなどせしかば、いかにせましと思ふ折々もあれど」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　もし自分が相手にされていなかったら、どうしようかと考えたことも時々ありましたが
イ　もし自分が相手にされていなかったとしても、何とかしたいと考えたことが時々ありましたが
ウ　自分が相手にされていないように思われたりしたので、どうしようかと考えたことも時々ありましたが
エ　自分が相手にされていないように思われたりして、何とかしなければと考えたことも時々ありましたが

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　次の傍線部「ば」の文法的説明として、最も適当なものを後の中から選べ。

「いづらやいづら」とてはしり出でて見給へば、藍摺(あゐずり)の直垂(ひたたれ)に折烏帽子(えぼし)着たる男、縁(えん)に寄りゐたる…

ア　確定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
イ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
ウ　確定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
エ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
オ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が常にそうなる関係で結ばれている。

問五　次の傍線部「ば」と意味用法が同じものを、後の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　形」＋とも＝　　条件（　　　〜　　　）

（例）今は逃ぐ**とも**、よも逃がさじ。

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　形」＋ど・ども＝　　条件

（例）（男は、自分の両親が女を追い出すので）血の涙を流せ**ども**、とどむるよしなし。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
イ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
ウ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
エ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
オ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問七　次の空欄Ａ・Ｂには接続助詞が入る。Ａ・Ｂをうめる組合せとして最も適当なものを、後の中から選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［Ａ］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［Ｂ］、鐘の声を聞こしめして、…」

ア　ども・ば
イ　ば・ども
ウ　ども・とも
エ　ば・とも
オ　とも・ば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「て」の用法＝単純接続

「　　形」＋て

★「で」の用法＝「　　」接続（～　　）

「　　形」＋で

（例）鬼ある所とも知らで、…

問八　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、後の中から選べ。

御心にも入らせ給はで、かの女のかたをしきりに御覧ずれば、…

ア　動詞の活用語尾　　イ　打消の助動詞　　ウ　打消の接続助詞

エ　順接の接続助詞　　オ　同格の格助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて　　イ　見せられて　　ウ　見えず

エ　見せないで　　オ　見えて

★「つつ」の用法＝①反復（〜ては）　②継続（〜し続けて）

「　　形」＋つつ

（例）女はこの男をと思ひ**つつ**、親のあはすれども（親が他の人と結婚させる）、聞かでなむありける。

問十　「物入れつ、参らするを」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　何か物を入れては差し上げていますのに

イ　何か物を入れて召し上がっていますのに

ウ　何か物を入れながら参上なさいますのに

エ　何か物をお入れしながら伺わせますのに

オ　何か物をお入れ申し上げなさいますのに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「に」・「を」の用法＝**①順接（～ので・から）**
②逆接（～のに・けれど）
③単純接続（～ところ・と）

「　　形」＋に・を

（例）
あやしがりて寄りて見る**に**、筒の中光りたり。
このことを嘆く**に**、ひげも白く、腰もかがまり…
人も手を触れぬ**に**、ふと上ざまへ上がりたるも、いみじうをかし。

★「ながら」の用法＝①逆接（～**のに**）
②同時（～**ながら**）
③**そのまま**
④**全部、～中**　　※「数量＋**ながら**」の形が多い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　次の傍線部の訳を、後の中からそれぞれ選べ。

①　身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

②　すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③　涙にむせびながら申すやう…

④　「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　～のに
イ　～ながら
ウ　～のまま
エ　全部、～中

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★ もの系（＝ものの・ものから・ものゆゑ・ものを）＝「　　接」

「　　形」＋もの系

＊「ものの」以外は順接の働きもある。

＊「ものを」＝**文末**にあれば、**詠嘆の終助詞**として「**～のになあ**」と訳す。

（例）

口惜しく心憂き**ものから**、すこしほほ笑まれて…

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなまし**ものを**

（「真珠ですか、何ですか」とあの人が尋ねたときに、「露です」と答えて、消えて（＝死んで）しまったならばよかった　　　）

問十二　「木の皮、苔の衣を着て、言ふばかりなきものから、ただの人に見えず。」の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　言葉で説明するまでもない簡素な装いだったので

イ　言葉にできないくらいひどい身なりであったが

ウ　言葉に表せないくらい高貴な雰囲気があったので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「て」の識別

【識別対象】
１　接続助詞「て」
２　完了の助動詞「つ」の「　　形」か「　　形」

★〈見分け方〉＝「　　」に「　　」が**有る**か**無い**かを確認。
（＊**１**、**２**ともに、上は必ず「　　形」である）

１　「　　」＝接続助詞「て」

（例）置き**て**逃げ**て**来ぬ。

２　「　　」＝完了の助動詞「つ」

※例外　「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「　　　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（例）

大井河にながしてけり。

信濃なる筑摩（ちぐま）の川の細石（さざれし）も君し踏みてば玉と拾はむ

問十三　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋助動詞＋助動詞

イ　動詞＋助動詞＋助詞

ウ　動詞＋助詞＋助動詞

エ　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞

オ　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞

カ　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十五講

① 次のア〜オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを一つ選べ。

ア　のたまはすれば　イ　明けぬれば　ウ　近ければ　エ　あらば　オ　聞こゆれば

② 「ものも言ふで帰りぬ。」の「言ふ」の活用形として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　言は　イ　言ひ　ウ　言ふ　エ　言へ

③ 「（銀貨を）六つながら夫妻に給はりけり」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ずつ　イ　ならば　ウ　だとしても　エ　すべて

④ 次の傍線部の中から、他と異なるものを一つ選べ。

ア　みそかに姉君をかたらひてむと思ひ…

イ　突き殺してば、いかがせまし。

ウ　へそのしもを突きてけり。

エ　うれしき心地して歩むに、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　模範解答

問一　エ
問二　ウ
問三　ウ
問四　ア
問五　イ
問六　ウ
問七　ア
問八　ウ
問九　エ
問十　ア
問十一　①　ア　②　エ　③　イ　④　ウ
問十二　イ
問十三　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十五講　模範解答・解説

〔解説〕

①　エのみ上が「未然形」で仮定条件。他は全て上が「已然形」で確定条件。よって、正解はエ。

②　活用形＝下を確認。下が「で」なので、未然形にする。「言ふ」（＝ハ行四段活用）の未然形は「言は」。よって、正解はア。

③　「数量＋ながら」なので、「全部・〜中」の「ながら」から考える。選択肢でこれに該当するものがエ。他の訳は「ながら」にはないことからも、エが正解。

④　アは、下が助動詞「む」なので、傍線部も助動詞。イは、下が接続助詞「ば」だが、「てば」「てばや」の「て」は助動詞。ウは、下が助動詞「けり」なので、傍線部も助動詞。エは、下が「歩む」で助動詞ではないため、傍線部は接続助詞。よって、エが正解。

〔解答〕

①　エ　②　ア　③　エ　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。